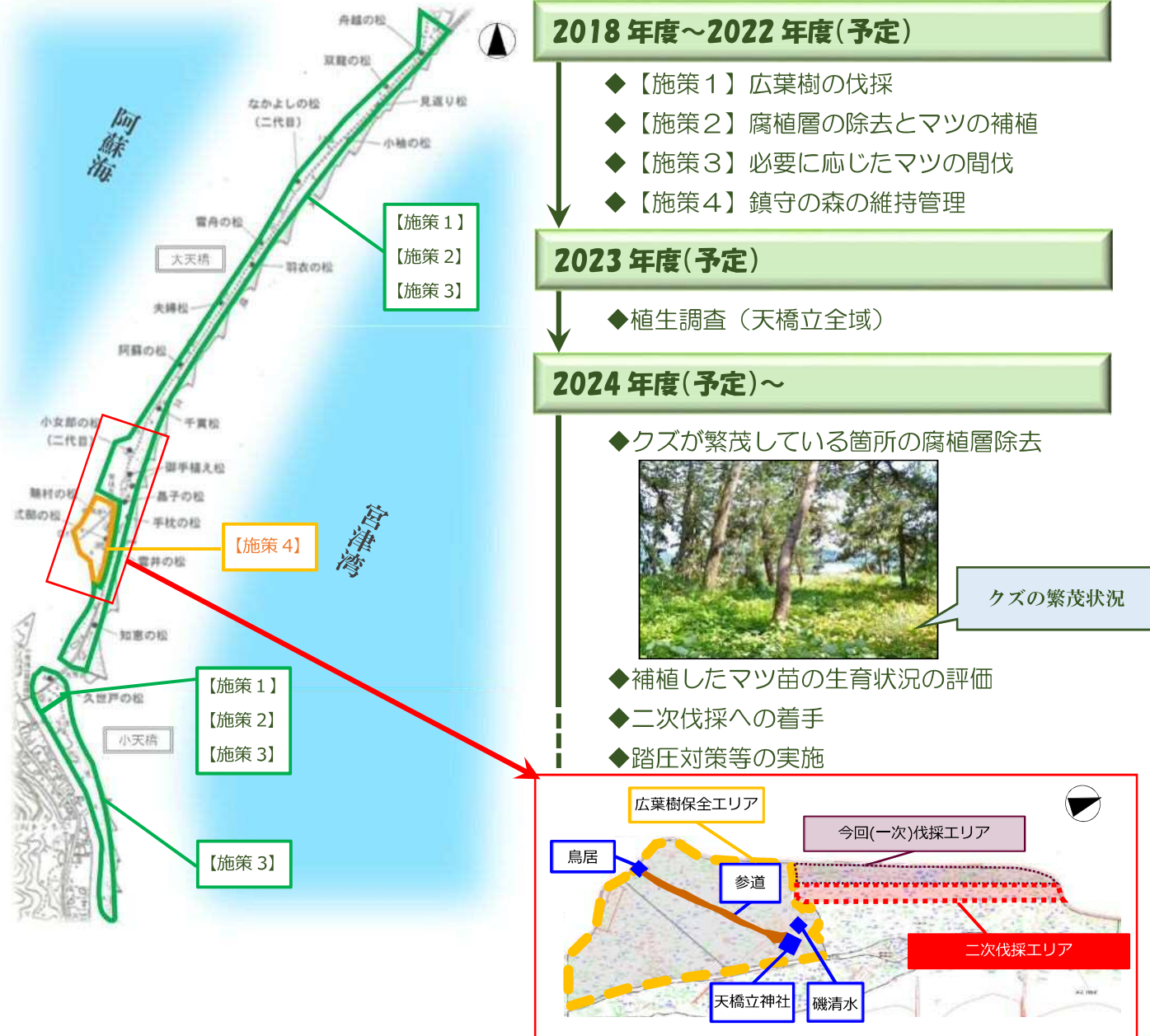


今後の課題

- 広葉樹伐採によってマツの生育や景観の向上が期待される一方、光環境の改善がクズ等の下草の繁茂を誘発することも考えられます。
- 2023年度に広葉樹伐採後の植生調査を実施する予定であり、その結果を踏まえ、2024年度以降は、クズが繁茂している箇所への腐植層除去について検討します。
- 天橋立神社北側の補植したマツ苗について、生育状況等を評価し二次伐採への着手を判断します。
- 地面が踏み固められて硬くなっている箇所ではマツの根の発達が妨げられるため、土壌改良や踏圧対策の実施を検討します。



京都府 建設交通部 都市計画課
京都府 丹後土木事務所

京都府 建設交通部 都市計画課
京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
TEL：075-414-5326
FAX：075-414-5329

京都府 丹後土木事務所 施設保全室
宮津市字吉原 2586-2
TEL：0772-22-3245
FAX：0772-22-3250



天橋立公園 松並木景観保全計画(案) ～概要版～

平成31年2月25日時点

天橋立の松並木を未来へ引き継いでいくためには、適切な維持管理が必要不可欠です。

京都府では、「天橋立公園松並木景観保全委員会」を立ち上げ、松並木の適切な維持管理について検討を重ねてきました。

「天橋立公園松並木景観保全計画(案)」は、『白砂青松』と呼べる天橋立の松並木を後世へ継承するために、

松並木の適切な維持管理について、今後の具体的な施策と計画をとりまとめたものです。

◆現状と課題

- かつて天橋立のマツは人々の日常生活に欠かせない燃料として、その落枝や落葉が利用されていましたが、生活様式の変化によってそれらが利用されなくなり、落枝・落葉の堆積による土壌の肥沃化が進んでいます。
- 地下水位が高いという天橋立の地形特性と土壌の肥沃化により、地上部と地下部でアンバランスな状態のマツが多くなり、平成16年の台風23号により247本の倒木被害が発生しました。
- 土壌の肥沃化は下草や広葉樹の生長を促し、松林が針広混交林へと遷移しつつあります。
- マツの樹林密度が高い箇所では、マツ同士の競合により生長が妨げられ、風害に弱い細いマツが多くなっています。

◆松並木保全の考え方

- 松林を目指すエリアと広葉樹も保全するエリアを明確にし、それぞれに適した維持管理を行います。
- 健全なマツで形成された風通しの良い白砂青松と呼べる松林を目指します。
- 天橋立神社及び参道付近はマツと広葉樹が混合する鎮守の森として維持管理に努めます。

天橋立公園松並木景観保全計画（案）

天橋立の目指すべき姿

健全なマツで形成された松林

適度な樹林密度の松林

下草のない松林



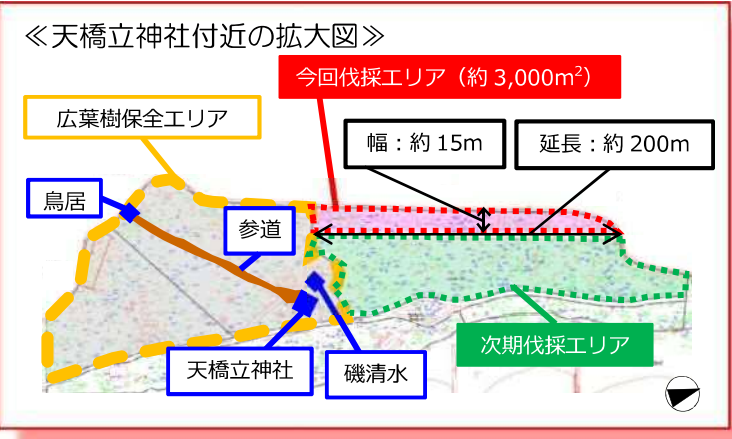
はしだて茶屋付近が天橋立の目指すべき松並木



今後5年間で実施する各施策の基本的な考え方

【施策1】 広葉樹の伐採

- ◆四季の彩が感じられ点景として活用できるヤマザクラなどの一部を除き、広葉樹を伐採します。
- ◆ただし、天橋立神社周辺は鎮守の森の趣を残すため、広葉樹保全エリアとして維持管理を行います。⇒【施策4】
- ◆広葉樹が多いエリアは、急激な環境の変化を避けるため、段階的に広葉樹を伐採します。

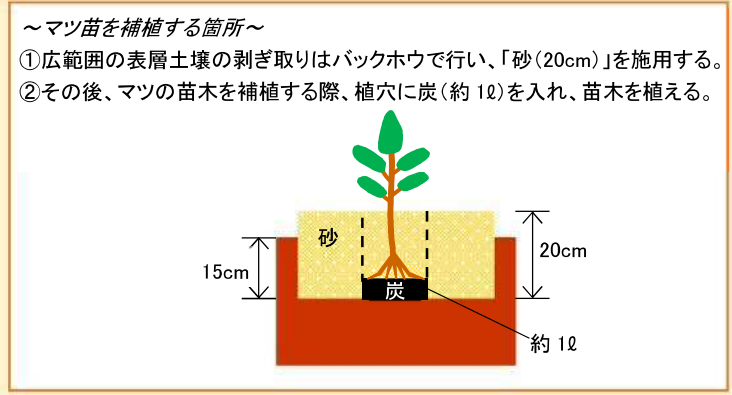
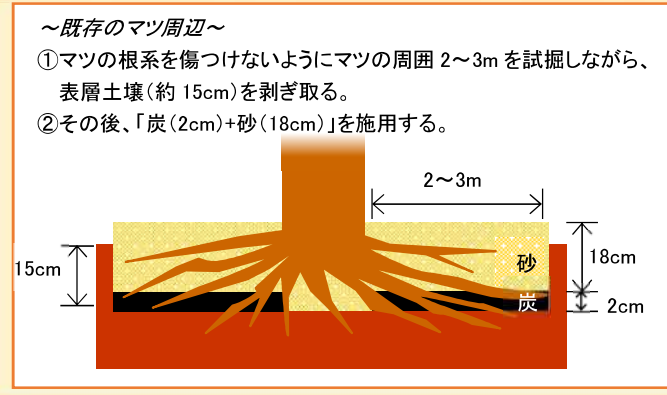


【施策2】 腐植層の除去とマツの補植

- ◆広葉樹伐採により大きな空間が生じる箇所は、マツを補植します。



- ◆マツを補植する箇所については、事前に腐植層を砂に置き換えます。



【施策3】 必要に応じたマツの間伐

- ◆広葉樹伐採と併せて、隣接木と枝葉が互いに干渉しているマツを対象に、必要に応じて間伐を行います。
- ◆小天橋はマツの樹林密度が高いことから、急激な環境の変化を避けるため、段階的に間伐を行います。

【施策4】 鎮守の森の維持管理

- ◆広葉樹保全エリアは、樹木の伐採や枝打ちを定期的に進め、現状程度の樹林密度を維持します。
- ◆広葉樹保全エリア内のマツの周辺は、今以上に腐植層が増加しないよう、引き続き下草の除去や落ち葉かきを行います。

天橋立公園松並木景観保全計画（案）の基本方針

- ① 健全なマツで形成された風通しの良い白砂青松と呼べる松林を目指す
- ② 天橋立神社及び参道付近はマツと広葉樹が混合する鎮守の森として維持管理に努める

具体的な施策

- 【施策1】 広葉樹の伐採
- 【施策2】 腐植層*の除去とマツの補植
- 【施策3】 必要に応じたマツの間伐
- 【施策4】 鎮守の森の維持管理

